

## 第 61 回歴史探訪の会 「史跡・日本最古の官道と当麻寺 & 大倉本家で利き酒」

実施日： 2018 年 3 月 14 日(水曜日)

場所： 奈良県・葛城市

案内人： 田原誠也

長尾は大阪と大和を結ぶ要地、大阪方面から日本最古の官道、竹之内街道を通過して大和へ入り、飛鳥の藤原京に至る古代の大道「横大路」の西側の入口となる所、現代に至っても、竹之内街道や長尾街道等の主要な街道が集まり、交差する交通の要所となっています。

その昔、三輪山を何重にも取り巻く大蛇がいたことから、蛇の頭を大神神社、尾っぽが長尾神社に相当すると伝えられます。他にも中将姫伝説ゆかりのお寺、当麻寺と石光寺を訪ねました。

コース： 近鉄・磐城駅～竹之内街道～長尾神社～竹之内街道～長尾街道～當麻寺～石光寺～高雄寺～  
ゆうあいステーション(昼食)～田園地帯～大倉本家で利き酒(有料)～近鉄・当麻寺駅 解散

案内は葛城市観光ボランティアガイドの会の 2 名により、2 班に別れて昼食場所まで案内頂きました。

丁寧に解りやすく案内して下さい、葛城市観光ボランティアガイドの会のお二人、本当に有難う御座いました。

### ☆近鉄磐城駅前に集合・朝礼



## ☆長尾神社へ向かう



## ☆竹之内街道

大阪府堺市から東へ向かい、二上山の南麓・竹内峠を越えて、長尾神社付近に至る約 26km の街道で、推古天皇 21 年に開通した飛鳥の都と難波を結ぶ、最古の官道です。沿道には古社寺や旧跡が多く、かつては旅人を泊めるための宿場町として栄えました。松尾芭蕉が訪れた地として有名で、沿道の綿弓塚には芭蕉の歌碑が建立されており、俳人の憩いの場となっています。また司馬遼太郎(しばりょうたろう)氏の母の実家が竹内にあったため、氏は幼少期をこの地で過ごしました。その著書『街道をゆく』の中でも竹内街道のことを語っています。

## ☆長尾街道

長尾街道は紀州街道の堺戎之町を起点とする「日本書紀」の天武天皇元年(672 年)7月条の壬申の乱における戦いの記述中に見える「大津道」であるといわれる古道です。長尾神社の手前で竹之内街道に合流する。

## ☆竹之内街道 長尾街道



## ☆長尾神社

葛城市長尾に鎮座する長尾神社では、御祭神は水光姫命(みひかひめのみこと)と白雲別命(しらくもわけのみこと)が祀られています。当社の創建は明らかではありませんが、平安時代の書物である「三代実録」や「延喜式(えんぎしき)」神名帳にも記載される葛下郡の式内社で、とても古い歴史を持つ神社です。また放光寺古今縁起(ほうこうじここんえんぎ)(1443年)には、飛鳥時代に天武天皇が壬申の乱で勝利したことから、その報賽(ほうさい)としてこの地を神地と定められたと記されています。古代においてこの長尾神社の場所は、大阪方面から竹内街道を通過して大和へ入り、飛鳥の藤原京に至る古代の大道「横大路」の西側の入口となる所であり、重要な場所に社地を構えていました。そして現代に至っても、この長尾の地は竹内街道や長尾街道などの主要な街道が集まり交差する、交通の要衝であることから、この街道を行き交う人々の守護神、いわゆる交通安全の神様としても、厚く信仰されています。

## ☆長尾神社



## ☆當麻寺

當麻寺は、612年に用明天皇の第3皇子麻呂子王が河内国に建てた万法蔵院に始まり、その後、麻呂子王の孫當麻真人国見が役行者ゆかりの現在地に移したものとされます。

## ☆當麻寺 仁王門



## ☆国宝 日本最古の鐘



681年に弥勒仏を本尊として金堂が創建され、以後、講堂・千手堂(現・曼荼羅堂)・東西両塔などの諸堂宇と、中院(現・中之坊)をはじめとする塔頭寺院が順次完成していきました。

創建当初は三論宗を奉じる学問寺院でありましたが、823年(弘仁14年)に空海が当寺に参籠してから真言宗となり、當麻曼荼羅を中心として修法・観想・祈禱などの仏道実践を重んじる密教寺院に転化した。この當麻曼荼羅は中将姫が一夜で織りなした伝説とともに全国的に広まり、多くの参詣者を迎えて浄土信仰の霊場として栄えた。この浄土信仰の高まりによって、南北朝時代には京都知恩院が當麻寺境内地に往生院(現・奥院)を建立することになり、後に浄土宗が参入する契機となりました。この結果、現在は真言宗と浄土宗の併立となっています。

平安後期に一時興福寺の末寺となったため、1180年(治承4年)、平家の南都攻めの際に標的となり、金堂が大破、講堂は焼失してしまったが、間もなく源頼朝が施主になって再興し、貴重な寺宝を現代に数多く伝えられることとなりました。境内には、国宝指定の本堂(曼荼羅堂)・東塔・西塔、国の重要文化財指定の金堂・講堂はじめ、大師堂・薬師堂・仁王門・鐘楼などが、独自の伽藍配置で立ち並び、金堂の弥勒仏坐像(国宝)、四天王像(重文)をはじめとして、多くの貴重な文化財を伝えています。また塔頭寺院も13を数え、俱利伽藍龍蒔絵経箱(国宝)、中之坊庭園(名勝・史跡)など、それぞれに貴重な寺宝を数多く伝えています。

☆当麻寺 1班と2班に別れて、ボランティアガイドの説明を熱心に聞いている



## ☆石光寺

草創は約1300年前、天智天皇(668～671在位)の勅願で建てられ、役小角(えんのおづぬ)の開山と伝えられる。境内に奈良時代前期といわれる塔の大心礎があり、平成3年には弥勒堂改築に伴う発掘調査の結果、日本最古の白鳳時代の石仏(当時の本尊)と他に瓦や仏せん(せんぶつ)が出土。

別名「染寺(そめでら)」とも呼ばれ、中将姫(747～775)ゆかりの「染の井」と「糸掛桜」がある。右大臣藤原豊成(704～765)の娘、中将姫は美貌で知られたが、17歳で出家、当麻寺にこもるうち靈感を得て蓮の茎を集め、糸を採り出した。そして石光寺の庭に井戸を掘り、糸を浸したところ五色に染まった。それが染の井で、傍らの桜の枝にかけたのが糸掛け桜。中将姫はその蓮糸で一夜のうちに当麻曼荼羅を織りあげたという伝説がある。

境内には牡丹、芍薬、アジサイ、桜、さるすべりなど、四季おりおりの花があります。

## ☆石光寺



## ☆染の井

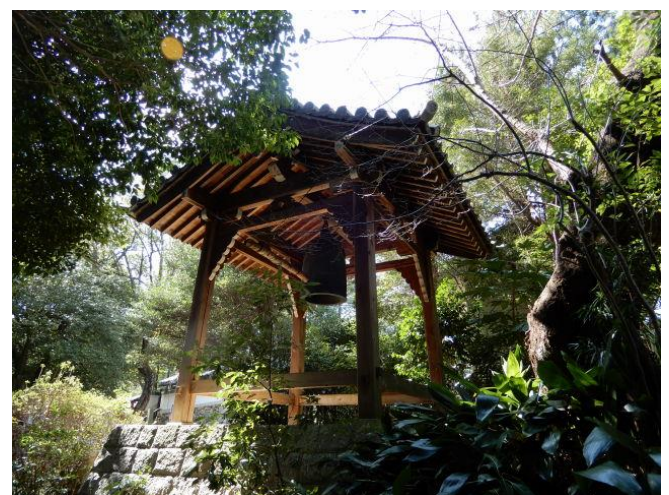


## ☆石光寺境内の花めぐり



## ☆高雄寺

役行者が開創し、院政時代には御願寺であったとされるが不詳。また、「高尾千軒」といったほど大きなお寺だったと伝わるが、今は収蔵庫と鐘楼を残すのみである。かつては真言系のお寺だったらしいが、現在は浄土真宗。本堂が平成11年に焼失して以来、再建されていないお寺です。



☆高雄寺 観音堂跡



☆葛城市ゆうあいステーション(昼食)～大倉本家へ向かう



☆大倉本家(酒蔵)で利き酒



☆大倉本家で利き酒



## ☆大倉本家(酒蔵) HP より抜粋

明治 29 年(1896 年)大倉勝治商店として創業。吟醸酒には「速醸酒母」も用いますが、それ以外は普通酒に至るまで、すべて山麴酒母で仕込んでいます。諸々の事情で平成 12 年秋の濁酒の仕込みを最後に休造を決断、創業以来初めて、蔵は酒造りの無い冬を経験することになります。3 年間の休造後、平成 15 年 11 月中旬、長年「金鼓」で指揮をとっていた杜氏の皆さんが蔵入りして 3 年振りに酒造りを再開、この時休造前に仕込んだお酒の在庫が底を尽きかけていました。蔵のキーワードは「山麴」と、「自家栽培米のひのひかり」、そして「水もと仕込み濁酒」。

創業以来頑なに守り続けて来た山麴仕込み、それこそは「金鼓」「大倉」の味を形成するもの……

## ☆大倉本家(酒蔵)で集合写真



## ☆おまけ

